



編集・発行 北海道立生涯学習推進センター

〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 8階 電話:011(204)5781 FAX:011(261)7431

E-mail:shougai.12@manabi.pref.hokkaido.jp ホームページアドレス:https://manabi.pref.hokkaido.jp/

道立生涯学習推進センターから、様々な研修事業をお知らせします。

当センターは、本道における生涯学習振興の拠点施設として、市町村や高等教育機関及び産業界などと連携を図りながら、「調査・研究」、「指導者の養成・研修」、「学習情報の提供・相談」などの取組をとおして、道民の様々な学習活動が豊かに展開されるよう支援しています。

今年度も、この「研修会だより」を通じて当センターが主催する事業の内容などを発信してまいりますので、どうぞご利用ください。

平成30年度北海道社会教育セミナーを開催しました。

当センターは、5月31日～6月1日に道民活動センタービル「かでの2・7」において、市町村及び市町村教育委員会職員等の社会教育関係者257名が参加のもと「学び」と「活動」の循環を促すための「アプローチ」について研修を行いました。プログラムごとに研修内容を紹介していきます。



研究
テーマ

地方創生の時代における社会教育行政の在り方
～「学び」と「活動」の循環を促すための方策について～

トークセッション「地域づくりの担い手育成に関する調査研究」について

生涯学習推進センターが平成29年度に行った「地域づくりの担い手育成に関する調査研究」について、3つの切り口から説明を行い、コメンテーターから意見をいただきました。ここでは、3つ目の切り口「つながりの工夫」と「主体的な地域の担い手の育成」について、紹介します。

教育委員会では、担い手育成事業に様々な工夫を凝らしています。右下のグラフは、教育委員会が実施した担い手育成事業のうち、実際に担い手育成につながった事業の割合を示しています。青のグラフは「つながりの工夫」をした事業での割合、黄色のグラフは、そのような工夫がなかった事業での割合を表しています。上段のグラフでは、Iターン等による移住者に参加してもらうことで、33.9ポイントも担い手育成につながる割合が上がっていることが分かります。工夫をすることで、担い手育成につながるものが、データで示されました。

コメンテーターからは、実際にIターンの方の参画が、別な視点に気づかせてくれ、良い影響を与えてくれたと、経験を交えた事例の紹介がありました。(詳細は当センターHPの事業報告をご覧ください。)

コメンテーター

栗山町青少年育成会会長 原田優司氏
NPO 法人 ezorock 代表理事 草野竹史氏
北海道社会教育主事会協議会会長 江端邦仁氏

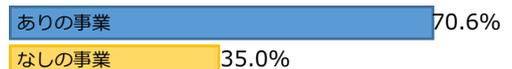
進行:道立生涯学習推進センター主幹 五十嵐秀介
説明:道立生涯学習推進センター主査 尾山清瀧

「つながりの工夫」と「活動につながった事業の有無」

工夫:事業の企画にIターンによる移住者が参加



工夫:過去の参加者が企画段階から参加



説明「北海道における生涯学習・社会教育の推進のために」

説明:道立生涯学習推進センター主査 田中尚史

昨年度の研究成果を踏まえ、「学び」と「活動」の循環を促す行政から地域住民や団体等へのアプローチについて研究を進めることを確認するとともに、今年度一年間の研究の流れ(右記)を改めて確認し、今年度が現テーマでの研究最終年となることから、各市町村が研究の成果を活用できる形にすることを説明しました。

<今年度の研究の流れ>

- ①6月社会教育セミナー アプローチの検討
- ②6月～9月 アプローチの実践
- ③9月ブロック研 実践結果の交流
- ④2月実践交流セミナー 研究のまとめ

社会教育基礎講座

講師：道立生涯学習推進センター主幹 五十嵐秀介、社会教育主事 中西めぐみ

前半の講演では、社会教育と生涯学習の基礎的な内容をはじめ、現在の社会の状況を踏まえた社会教育行政担当者の役割などについて説明しました。特に「地方創生」については、行政担当者が人口減少の進行や地域のインフラの老朽化など、地域課題を把握することが必要あることを説明しました。その後の演習では資料を基に地域の現状を調べ、地域課題を抽出し、課題解決のための事業の企画を行いました。



分科会

分科会ごとに目指す姿（右記）を設定し、4つの Step により研究協議を進め、地域住民や団体等へのアプローチを検討しました。

Step 1 目指す姿になるための課題を洗い出す。

Step 2 課題に対するアプローチを考える。

Step 3 グループでおすすめのアプローチを考える。

Step 4 分科会内でグループごとに発表する。

途中、他の分科会で検討されている課題とアプローチを見学する時間を設けました。参加者は、見学先では積極的に質問し、自分のグループを見学に来た人に対しては、熱心に説明する姿が見られました。

<分科会成果物について>

グループごとにおすすめのアプローチを検討し、「どのような状態の地域住民や団体等」に「どのようなアプローチ」をすると「どのようになる」という形式でまとめました。（まとめたものは「アプローチ集（試行版）」として各市町村教育委員会に送付しました。）

<目指す姿>

第1分科会「青年活動の促進」

青年層が主体的なマチづくりを展開

第2分科会「高齢者の活動促進」

高齢者が主体的なマチづくりを展開

第3分科会「家庭教育支援活動の促進」

家庭教育支援による、子どもたちの豊かな心と健やかな体の育成

第4分科会「地域学校協働活動の促進」

地域学校協働活動による子どもたちの豊かな人間性、社会で生きる力の育成

講演「地域住民の主体的な活動を促す方策について」

講師：国立教育政策研究所社会教育実践研究センター社会教育調査官 二宮伸司氏

はじめに概念整理と原点回帰として、「学習と教育の違い」「フォーマルエデュケーション・インフォーマルエデュケーション・ノンフォーマルエデュケーション」「生涯学習と社会教育の違い」について説明がありました。

次に社会教育主事の専門性について触れ、プログラマーやコミュニティオーガナイザーの力が求められていることが紹介されました。

また、国の教育政策の動向として、第3期教育振興基本計画の概要が紹介され、客観的な根拠を重視すること、教育投資の在り方、新時代の到来を見据えた次世代の教育の創造を留意する必要があることなどの説明がありました。

最後に二宮氏が在籍する国社研は、レファレンス機能を有しており、必要に応じて活用してほしいと話がありました。

参加者からは、「今後、何がどう変わっていき、自分はどうすべきか考えさせられた。」「貴重な資料をいただいたので活用したい。」「地域住民の活動を促すためにはまず、自分自身のスキルアップの必要を感じた。」などの感想が寄せられました。



研修会情報

研修会の日程をお知らせします。参加のご検討よろしく申し上げます。

研修会名	日程	開催地
道央ブロック社会教育主事等研修会	9月13日(木)～14日(金)	千歳市
道南ブロック社会教育主事等研修会	9月26日(水)～27日(木)	日高町門別
道北ブロック社会教育主事等研修会	9月27日(木)～28日(金)	富良野市
道東ブロック社会教育主事等研修会	9月20日(木)～21日(金)	幕別町
課題対応型学習活性化セミナー道央会場	11月8日(木)	倶知安町
課題対応型学習活性化セミナー道北会場	10月 ※開催日は未定	稚内市
地域生涯学習実践交流セミナー	2月14日(木)～15日(金)	札幌市(かでる2・7)